

人物風土記

題字は
山中竹春 横浜市長

○：2年続きのコロナ禍の中、ついに海外のブコを招いてのスカッシュの国際大会を自らの運営するスカッシュコートで開催。「この2年は国内選手のみ大会。感慨深い」と振り返る。(公社)日本スカッシュ協会理事でもあり、以前はコート運営と並行して年間20回ほど大会を主催し、全国を飛び回る生活だった。「スカッシュと出会い30年。業界のため、今後も後進育成に努めたい」と力を込める。

○：鶴見区出身。小学校から高校までは野球一筋。体育教師を目指して



● 5月27日～29日、新羽町でスカッシュの国際大会を開催した

渡辺 祥広さん

泉区在住 52歳

スカッシュに魅せられて

「挑戦の連続なのでボジティブと思われているが、実は心配性。でも外に出たら皆と楽しみ、それを力に変えている」。スカッシュは俊敏な動きが求められるので、日本人に合っているとも。今は次世代育成で競技人口を増やし、プロ選手への道を応援していきたいと目標を見据えた。

もともと競技を広めようと、国内では稀な専用コートに着手。「挑戦の連続なのでボジティブと思われているが、実は心配性。でも外に出たら皆と楽しみ、それを力に変えている」。スカッシュは俊敏な動きが求められるので、日本人に合っているとも。今は次世代育成で競技人口を増やし、プロ選手への道を応援していきたいと目標を見据えた。

本学生選手権優勝など実績を積み、1994年にはスカッシュ発祥の地、英国へ武者修行に。帰国後は、プロとなり、全日本選手権通算7回優勝、日本代表としてアジア競技大会ベスト8などの輝かしい結果を残した。

○：引退後は、日本でもっと競技を広めようと、国内では稀な専用コートに着手。「挑戦の連続なのでボジティブと思われているが、実は心配性。でも外に出たら皆と楽しみ、それを力に変えている」。スカッシュは俊敏な動きが求められるので、日本人に合っているとも。今は次世代育成で競技人口を増やし、プロ選手への道を応援していきたいと目標を見据えた。



PSA公認スカッシュ国際大会 男女とも日本人 選手が優勝

優勝した渡邊聡美選手(中央左)と机龍之介選手(中央右)は見事、それぞれ全日本選手権で連覇している。机龍之介選手、渡邊聡美選手が優勝し、満面の笑顔を見せていた。

ヨコハマスカッシュユースタジアムSQUICUBE(新羽町)でPSA(プロスカッシュ協会)公認の試合ができた。日本人のトップ選手が、世界ランクで上位の選手にとだけ差をつめられるかが見どころ。結果は見事、それぞれ全日本選手権で連覇している。机龍之介選手、渡邊聡美選手が優勝し、満面の笑顔を見せていた。

の国際大会「DYNAM CUP PSA SQUICUBE OPEN 2022 IN YOKOHAMA」が5月27日から29日に開催された。主催は同スタジアムを運営するT&Wカンパニー株式会社。

同社の代表取締役である渡辺祥広さん(人物風土記)に